

糖質科学で未来を創る



2011年3月期 決算説明会



生化学工業株式会社

(証券コード: 4548)



<http://www.ehiza.jp/>

東日本大震災の影響①

◆生産関連

(1) 高萩工場(茨城県高萩市・医薬品製剤工場)

- ・3月23日に製品在庫の出荷を再開
- ・インフラ復旧に伴い、4月11日に第4製剤棟が稼動
- ・4月29日までにすべての製剤棟が生産再開

(2) 久里浜工場(神奈川県横須賀市・医薬品原体工場)

- ・3月14日より通常生産

(3) 三陸加工株式会社(子会社、宮城県気仙沼市・コンドロイチン硫酸原料の加工)

- ・事業再開の目処立たず
- ・他の供給先からの原料調達量を増やし、コンドロイチン硫酸の安定供給に対応

東日本大震災の影響②

◆業績に与える影響

(1) '11.3 期実績

震災による復旧費用等932百万円を特別損失として計上

(高萩工場の設備復旧費用、三陸加工に貸与している土地の減損損失等)

(2) '12.3 期予想

算定可能な災害関連費用のみ見込む(特別損失)

◆義援金寄付

被災者の皆さまに対する救済活動・復興支援のための義援金を
中央共同募金会を通じて寄付

① 義援金: 50百万円

② 義援金マッチングギフト: 4百万円

'11.3期 業績の概要

(百万円)

	'11.3 実績	'10.3 実績	前期比 (増減率)	11/9発表 予想	予想比 (増減率)
売上高	27,117	27,617	-499 (-1.8%)	27,200	-82 (-0.3%)
営業利益	3,533	5,110	-1,577 (-30.9%)	3,300	+233 (+7.1%)
経常利益	4,159	5,114	-955 (-18.7%)	3,400	+759 (+22.3%)
当期純利益	2,451	3,575	-1,123 (-31.4%)	2,700	-248 (-9.2%)
研究開発費	6,723	5,517	+1,205 (+21.9%)	6,900	-176 (-2.6%)
研究開発費 対売上比率	24.8%	20.0%	+4.8pt	25.4%	-0.6pt
一株当たり 当期純利益	43.16円	62.94円	-19.78円	47.53円	-4.37円

期中平均レート 85.72円
(1US\$)

92.86円

83.00円
(第3Q以降前提)

'11.3期 売上高(前期比)

(百万円)

売上高: 27,117 (-499 / -1.8%)

【医薬品: 21,184(-221)】

・国内(+653)

アルツ: 販売数量増が薬価引き下げの影響を上回り増加

オペガン: 販売数量は増加したが、薬価引き下げにより微減

ムコアップ: 内視鏡手術の浸透が進み増加

・海外(-875) *マイルストーン型ロイヤリティー収入の計上区分変更: 約-300 円高: 約-260

米国: 一部民間保険会社の償還厳格化および円高の影響で減少

中国: 現地販売が伸び、増加

【機能化学品: 5,933(-278)】

・試薬・診断薬(-357): 円高の影響や国内売上の減少

(ACC社の現地通貨ベースでの売上は増加)

・医薬品原体(+79): ヒアルロン酸の増加

◆Point: 国内アルツは販売数量増で薬価引き下げの影響をカバーしたが、海外医薬品(ロイヤリティーを含む)および試薬・診断薬が減少

'11.3期 利益(前期比)

(百万円)

営業利益: 3,533 (-1,577 / -30.9%)

【原価(-13)】

国内アルツの販売数量増があったものの、第4製剤棟減価償却費等が減少

* 原価率: 38.6%(+0.2pt) (マイルストーン型ロイヤリティー除く)

【販管費(+1,091)】

R&D費 6,723(+1,205): SI-6603の国内治験費の一括費用化および
試作関連費の増加

その他経費は減少

当期純利益: 2,451 (-1,123 / -31.4%)

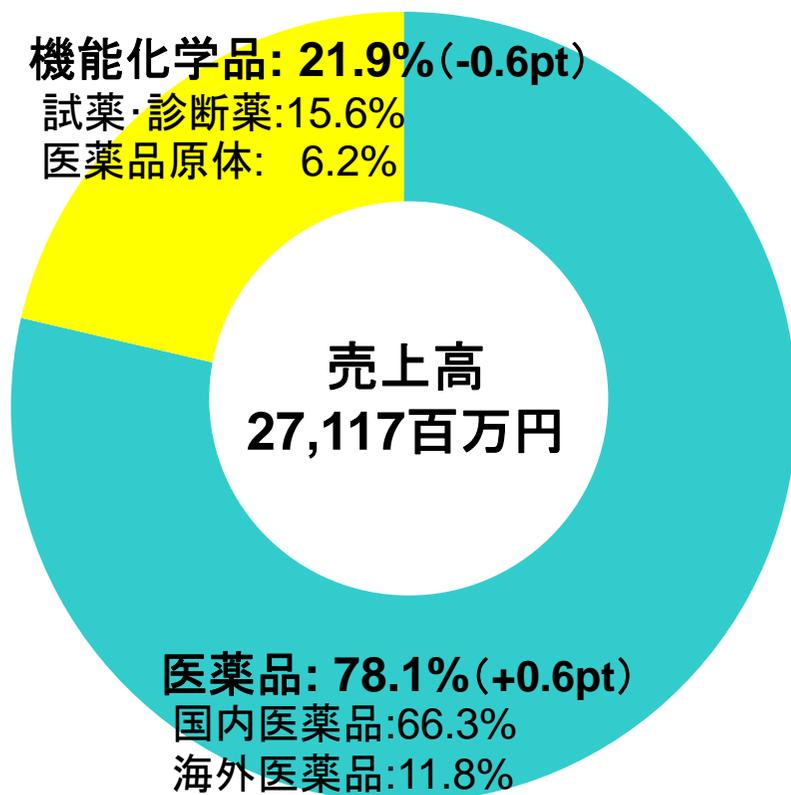
【受取ロイヤリティー(+567)】 マイルストーン型ロイヤリティー収入の区分変更

【特別損失(+984)】 震災による復旧費用や土地の減損損失(+932)
資産除去債務費用過年度分の計上(+51)

◆Point: 売上総利益の減少に加え、SI-6603国内治験費の一括費用化に伴う研究開発費の増加および、震災復旧費用等の特別損失発生により減益

'11.3期 セグメント別売上高

(百万円)



セグメント	売上高	前期比	増減率
【医薬品】	21,184	-221	-1.0%
国内医薬品	17,976	+653	+3.8%
海外医薬品	3,207	-875	-21.4%
【機能化学品】	5,933	-278	-4.5%
試薬・診断薬	4,240	-357	-7.8%
医薬品原体	1,692	+79	+4.9%
合計	27,117	-499	-1.8%
(海外売上高)	5,710	-943	-14.2%



'11.3期 業績予想(11.9公表)との対比

(百万円)

売上高: 27,117 (-82 / -0.3%)

- ◆ 医薬品(-115): 国内アルツは増加
海外向け出荷の一部が来期に繰越し
- ◆ 機能化学品(+33): 研究用試薬の減少をエンドトキシン測定用試薬の増加で吸収

営業利益: 3,533 (+233 / +7.1%)

- ◆ 売上原価(約+100): 国内販売数量増に伴い増加
- ◆ 販管費(約-400): R&D費減少(-176) 予想 6,900 ⇒ 実績 6,723
販売関連費用等も減少

当期純利益: 2,451 (-248 / -9.2%)

- ◆ 受取ロイヤリティー: マイルストーン型ロイヤリティー収入の発生
- ◆ 特別損失: 震災による復旧費用や土地の減損損失の発生

◆ **Point:** 売上高は、ほぼ予想どおり。研究開発費など販管費の減少やロイヤリティー収入の計上があったものの、災害による特別損失の発生により、当期純利益は未達

'12.3期 通期予想の概要

(百万円)

	'12.3予想	'11.3実績	前期比 (増減率)
売上高	28,000	27,117	+882 (+3.3%)
営業利益	4,800	3,533	+1,266 (+35.9%)
経常利益	5,100	4,159	+940 (+22.6%)
当期純利益	3,300	2,451	+848 (+34.6%)
研究開発費	5,900	6,723	-823 (-12.2%)
研究開発費 対売上比率	21.1%	24.8%	-3.7pt
一株当たり 当期純利益	58.09円	43.16円	+14.93円

期中平均レート
(1US\$)

83.00円
(前提)

85.72円

'12.3期 通期業績予想(前期比)

売上高: 28,000 (+882 / +3.3%)

(百万円)

【医薬品(+1,215)】

- ◆ 国内(+1,023): アルツが引き続き順調に増加
- ◆ 海外(+192): 中国、イタリアの現地販売好調に加え、前期からの出荷繰越しもあり増加

【機能化学品(-333)】

- ◆ 試薬・診断薬(-440): 海外売上は増加するものの、研究用試薬事業廃止により減少
- ◆ 医薬品原体(+107): ヒアルロン酸の増加

営業利益: 4,800 (+1,266 / +35.9%)

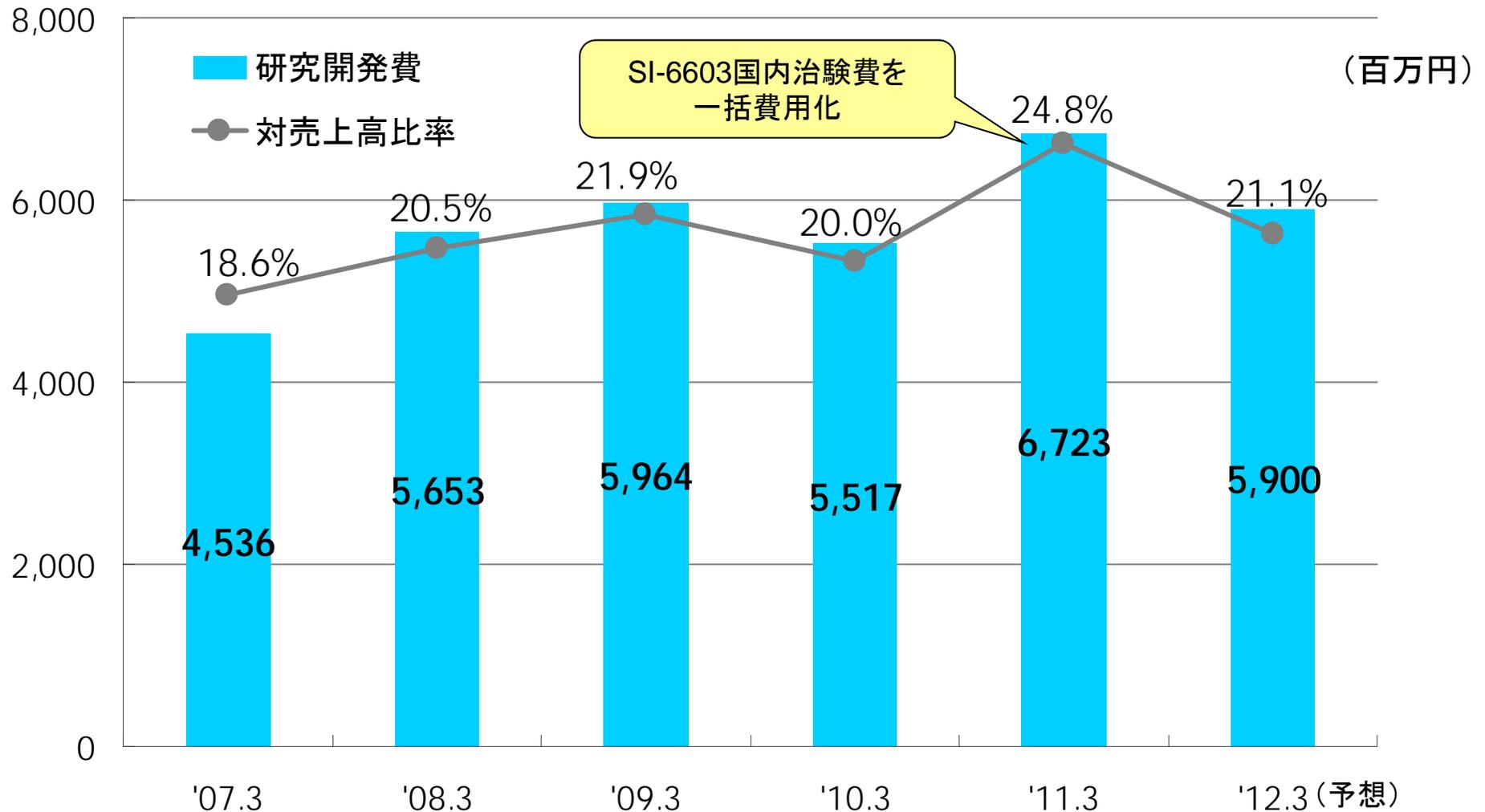
- ◆ 売上原価(約-300): 販売数量増を第4製剤棟の減価償却費の減少等で吸収
- ◆ 販管費(約-150): R&D費;-823(前期にSI-6603国内治験費を一括計上)
販売関連費用などその他の費用が増加

当期純利益: 3,300 (+848 / +34.6%)

- ◆ 営業外損益: 為替差損は減少するものの、マイルストーン型ロイヤリティー収入が減少
- ◆ 特別損失: 震災の影響に伴う特別損失の減少
※特別損失以外に東日本大震災の影響を見込まず

◆**Point:** 国内アルツおよび海外医薬品が増収。研究開発費や特別損失の減少もあり、増益

研究開発費の推移



◆Point: '11.3期は主にSI-6603の国内治験終了により増加
'12.3期は大きな支出がなく、20%程度の水準に戻る

架橋ヒアルロン酸「Gel-One[®]」のFDA承認取得

【承認取得日】

'11年3月22日（米国現地時間）

【上市予定】

'11年中の上市を目指す



- ◆ 物質名： 架橋ヒアルロン酸
- ◆ 適応症： 変形性膝関節症の痛みの治療
- ◆ 用法： 膝関節への注射（単回投与）
- ◆ 販売提携先： Zimmer社（米国・インディアナ州）
- ◆ 特徴：
 - ① 独自の架橋技術を用いて創製した架橋ヒアルロン酸ゲルが主成分
 - ② 膝関節腔内で潤滑作用を代替する
 - ③ 1回の注射で疼痛抑制効果を示す

米国におけるヒアルロン酸関節注射剤の市場状況

◆ 65歳以上の人口推移

2025年まで年率3%以上で増加する予想

◆ 市場規模(推計)

US\$ 635 Mil.(2010年)

◆ 変形性膝関節症の患者数(推計)

潜在患者: 125 百万人

顕在患者: 15 百万人

◆ 市場環境

一部民間保険会社がコスト削減を推進
単回投与製品のニーズが向上



米国における拡大戦略

変形性膝関節症患者の方々に 治療の選択肢を提供

Gel-One®

(単回投与製品)

販売提携先: Zimmer, Inc.

- » 臨床試験で示された高い安全性
- » 複数回投与製品と同等の有効性
⇒ 単回投与製品の市場開拓と
シェアアップ



治療選択肢
の拡大



SUPARTZ®

(複数回投与製品)

販売提携先: Smith & Nephew, Inc.

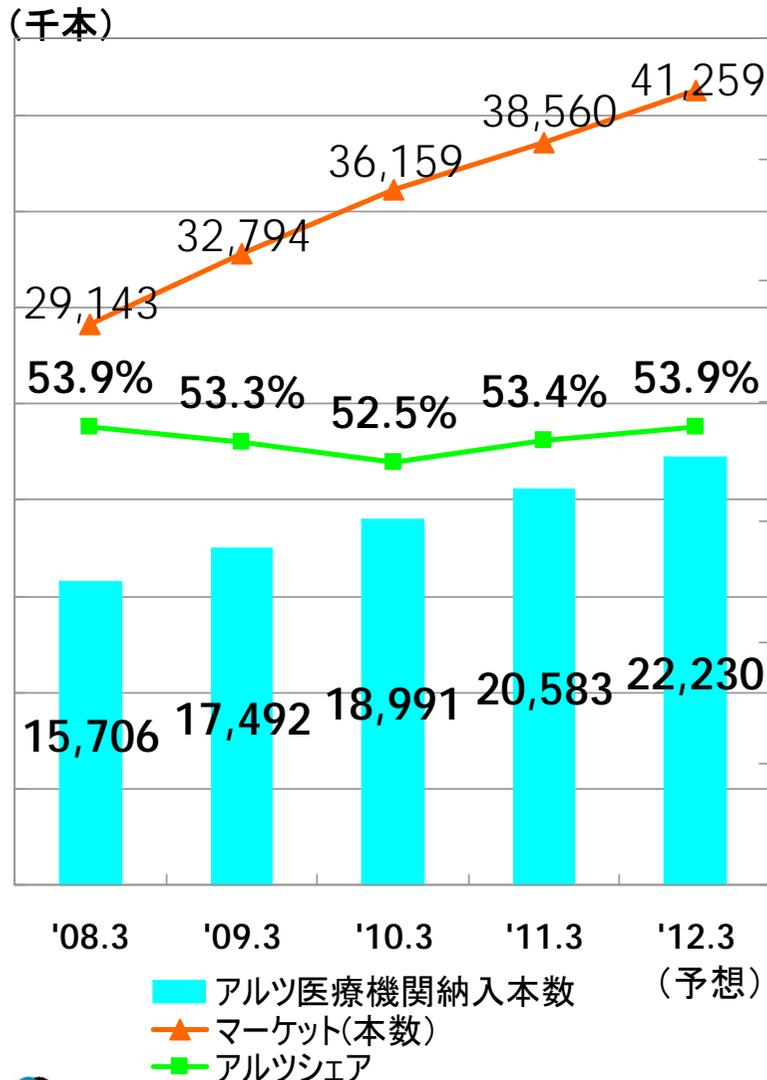
- » 世界No.1製品(高い品質と安全性)
- » 「SUPARTZ Direct」: 保険償還サポート
- » 「My Knee and Me」: 患者認知度アップ
⇒ 複数回投与製品のニーズを獲得

さらなる
市場浸透

疾患啓発ウェブサイト
“My Knee and Me”

国内アルツの販売状況(医療機関納入本数ベース)

アルツ医療機関納入本数の推移



■'11.3 期 (前期比)

《マーケット》 : +6.6%

・プラス要因

高齢者人口の増加、疾患啓発活動の継続実施

・マイナス要因

震災の影響で3月に一部物流機能が停滞

《アルツ》 : +8.4%

・先発品としてのブランド力の向上

・プラスチック容器の投入

・当社売上も薬価引き下げ(-7.7%)の影響を数量増でカバーして増加

市場シェアアップ
53.4% +0.9pt
(前期比)

■'12.3期予想 (前期比)

《マーケット》 : +7.0%

《アルツ》 : +8.0%

・引き続きブランド力を活かした営業活動を推進し、マーケット拡大を上回る増加を目指す

※東日本大震災の影響は見込まず(発生しても限定的とみる)

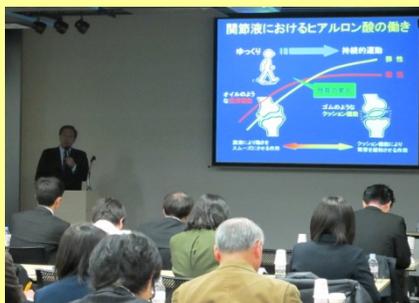
アルツ: ヒアルロン酸を主成分とする関節機能改善剤

マーケットとアルツ処方拡大施策

疾患啓発活動によるマーケット拡大施策

ひざの痛みに関する意識調査を実施

「8割の方がひざの痛みがあっても病院に行かない」
「病院に行く患者さんの
7割が『痛みの改善』を実感」



顕在患者約1,000名を対象に意識調査を実施
その結果をメディア向けにセミナーで発表('11年2月)



TV東京系列で疾患啓発番組を放送('11年3月)

アルツ処方の拡大施策

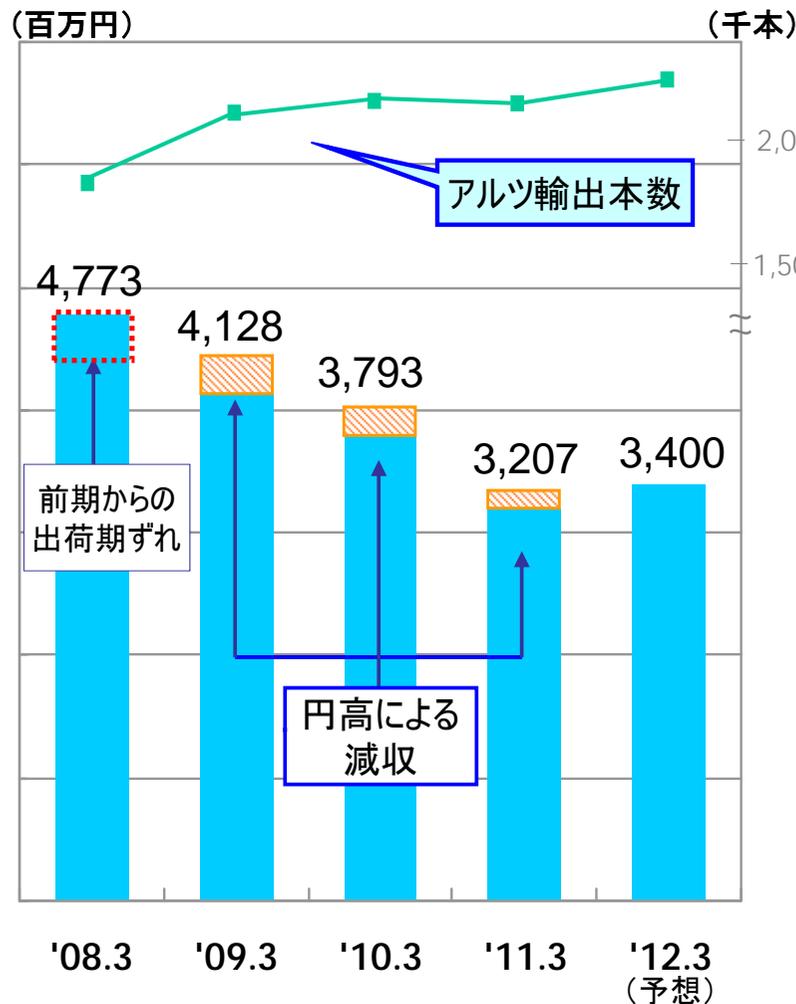
- ・'10年6月にプラスチック容器を市場投入
- ・疾患啓発活動のパンフレット等資材の活用による医療機関へのアプローチ
- ・整形外科以外の診療科への販売促進強化



アルツディスポ プラスチックシリンジ

海外医薬品の販売状況(金額ベース)

海外医薬品の売上推移



■ '11.3期 -15.4%(前期比)

《米国》

- ・現地販売：-8.1%
一部民間保険会社の償還非推奨などにより数量減
販売単価は下げ止まり
- ・当社輸出：-19.7%
前期末の現地在庫の積み増し、円高の影響(約-8%)

《その他地域》：

- ・当社輸出：-0.8%
イタリア向けの出荷繰越しや北欧での保険償還停止
の影響を中国現地販売増加(+25%)でカバー

■ '12.3期予想 +6.0%(前期比)

《米国》

- ・Supartz現地販売：保険償還サポートやWeb活用により
複数回投与製品ニーズを獲得し、減少幅の縮小を狙う
- ・Gel-One現地販売：2011年中に発売予定
- ・当社輸出：+1.8% 円高の影響が一巡

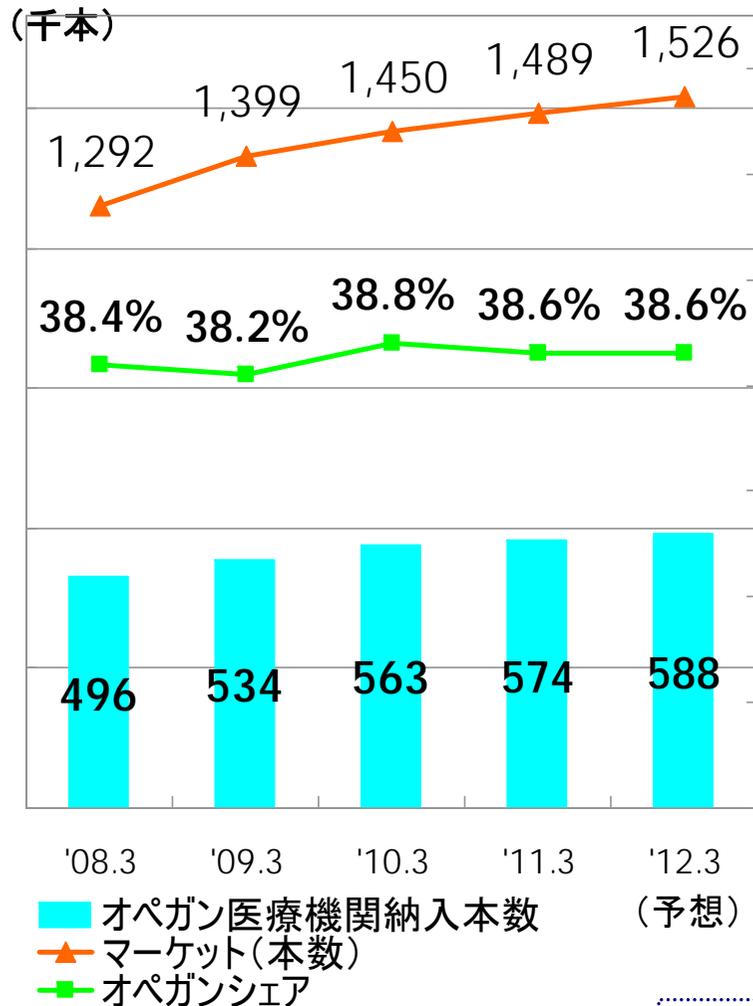
《その他地域》 +17.6%

- ・中国続伸。イタリアも現地販売増

'11.3期からマイルストーン型ロイヤリティ収入の計上を売上高から営業外収益に区分変更したことから、過去分数値についても遡及して再計算しています。

オペガンの販売状況(医療機関納入本数ベース)

医療機関納入本数の推移



■ '11.3 期(前期比)

《マーケット》 : +2.7%

・高齢者人口の増加に伴い、白内障手術件数が増加

《オペガン》 : +1.9%

・競合が厳しくなるなかで、顧客満足度の高い販促活動を継続

■ '12.3期予想(前期比)

《マーケット》 : +2.5%

・前期と同程度の拡大を見込む

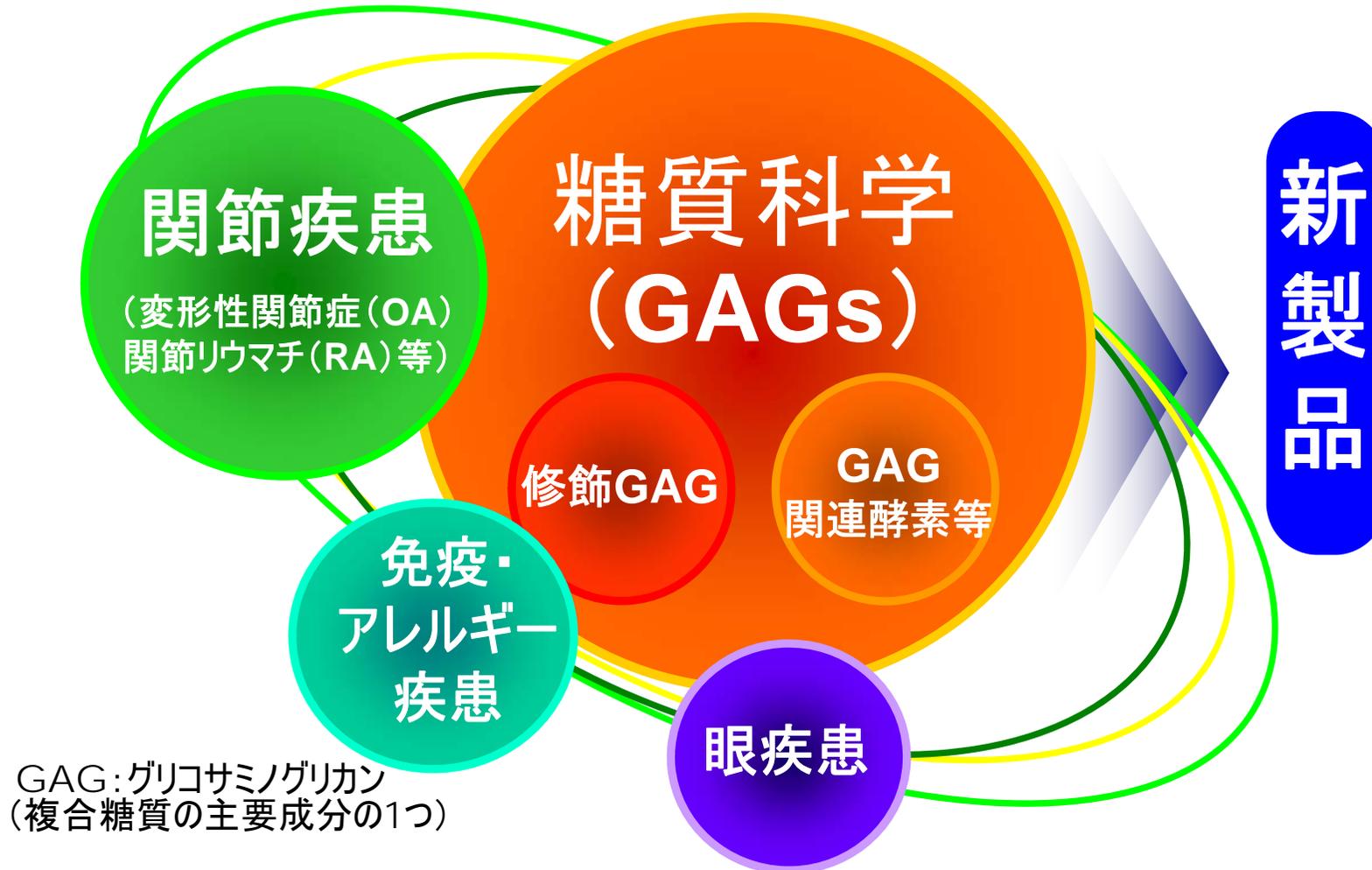
《オペガン》 : +2.5%

・競合対策や製品特性を活かした販売戦略に注力し、市場拡大並みの増加を目指す

※東日本大震災の影響は見込まず(発生しても限定的とみる)

オペガン: ヒアルロン酸を主成分とする白内障手術の補助剤

研究開発基本方針



GAG: グリコサミノグリカン
(複合糖質の主要成分の1つ)

◆Point: 専門分野である糖質科学に焦点を絞り、自社開発・導入をバランスよく推進し、新製品の早期かつ継続的な上市を目指す

パイプラインリスト

開発コード・物質名	適応症等	開発地域	前臨床	P I	P II	P III	申請	承認
Gel-One® (Gel-200) 架橋ヒアルロン酸ゲル	変形性膝関節症	米国	'11.3に承認取得					
SI-602 ヒアルロン酸	変形性肩関節症 (スパルツ適応症追加)	米国	'11.3に申請取り下げ					
SI-6603 コンドリアーゼ*	腰椎椎間板ヘルニア	日本	'10.12にP II/III終了					
		米国						
SI-615 アデノシンA3レセプターアゴニスト	関節リウマチ	日本						
SI-636 抗VAP-1モノクローナル抗体	関節リウマチ・乾癬・ 炎症性腸疾患	日本						
	眼科領域							
	関節疾患領域							

「SI-6603」日本で申請準備段階へ

- ◆ 物質名：コンドリアーゼ*¹
- ◆ 適応症：腰椎椎間板ヘルニア
- ◆ 用法：椎間板への注射（X線透視下で投与）
- ◆ 現在のステージ：

日本：P II/Ⅲ終了、申請準備中

➤ 試験概要

腰椎椎間板ヘルニア患者（195例）を対象とした無作為化二重盲検比較試験

➤ 試験結果

◎ 主要評価項目：「投与13週後における下肢痛の軽減」

（ベースライン値からVAS*²値の変化量を評価）

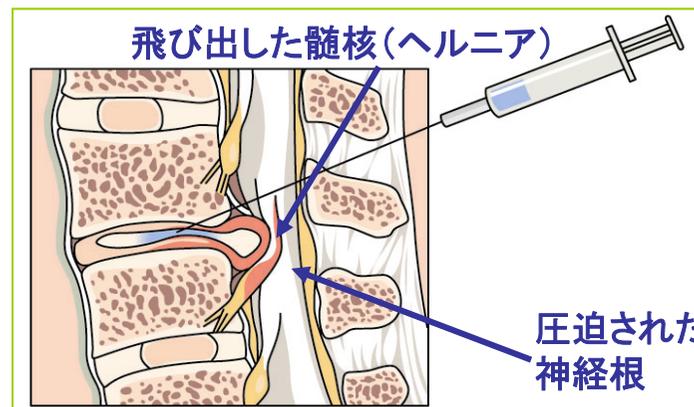
プラセボと比較して有意な改善効果を示した

◎ 安全性：「SI-6603」に起因する重篤な副作用はみられなかった

➤ 承認申請 '11年後半予定

米国：P II 実施中

被験者の組み入れが順調に進捗中



コンドリアーゼ*¹:コンドロイチナーゼABCの一般名
VAS*²:Visual Analogue Scale

SI-602の承認申請取り下げ

- ◆ 物質名：ヒアルロン酸ナトリウム
- ◆ 適応症：変形性肩関節症（米国スパルツの適応症追加）
- ◆ 用法：肩関節への注射

【申請取り下げ日】

'11年3月30日（米国現地時間）

【取り下げ理由】

FDAより追加の臨床試験を要求されたため



◆ 特徴：

- ・ヒアルロン酸が軟骨を覆うことにより肩関節腔内の潤滑性を向上させる
- ・スパルツの販売提携先 Smith & Nephew社との共同開発
- ・日本においてアルツは肩関節周囲炎の適応症を取得している

設備投資計画

◆ コンドロイチン硫酸原体製造設備(久里浜工場福作)

- (1) 目的: 既存設備の老朽化への対応、製造エリアの集約
- (2) 設備投資額: 約11億円
- (3) 工事計画: 着工;' 11年5月 竣工;' 12年1月 操業;' 12年7月

◆ ヒアルロン酸原体製造設備(久里浜工場福作)

- (1) 目的: ヒアルロン酸製剤の生産量増加に対応
- (2) 設備投資額: 約35億円
- (3) 工事計画: 着工;' 12年1月 竣工;' 13年3月 操業;' 14年4月

◆ 第5製剤棟(高萩工場)

- (1) 目的: アルツディスポの生産量増加に対応
- (2) 設備投資額: 約98億円
- (3) 工事計画: 着工;' 12年3月 竣工;' 13年7月 操業;' 15年1月

研究用試薬事業の廃止

◆ 事業廃止の理由

- (1) 景気低迷の影響を受け、研究施設の統廃合が進む
- (2) 競合他社の参入等もあり、事業環境は厳しさを増す

⇒ 研究用試薬事業の収益拡大は望めないと判断

◆ 同事業の売上規模（'11年3月期実績）

売上高：約8億円

連結売上高に占める比率：約3%

利益配分に関する基本方針

◆ 剰余金の配当（業績連動型配当政策）

1株当たり年間20円をベースとして、より配当性向を重視した業績連動型の配当政策を導入。配当性向30%を維持しつつ更なる向上を目指す

◆ 内部留保

中長期的な視野に基づいた研究開発、設備投資等に充てる

◆ 機動的な資本政策

資本効率の向上を目的として、自己株式の取得等を適宜検討する

	'08.3期	'09.3期	'10.3期	'11.3期	'12.3期 (予想)
一株当たり当期純利益	73.67円	55.68円	62.94円	43.16円	58.09円
一株当たり年間配当金	* 30.00円	25.00円	25.00円	25.00円	25.00円
配当性向	40.7%	44.9%	39.7%	57.9%	43.0%

* '08.3期の配当金には、創立60周年記念配当5円を含んでいます。

生化学工業10年ビジョン・中期経営計画

生化学工業10年ビジョン

“グローバル・カテゴリー・ファーマ”

糖質科学に研究開発の焦点を絞って、
国際競争力を確立する

コンスタントなペースで新薬（医療機器を含む）を上市し、3年程度に
1つ経営の柱となり得る市場を開拓できる実力を涵養する

中期経営計画

（'10年3月期～'12年3月期）

～10年ビジョン実現に向けた「基礎体力の養成と体制の構築」～

スローガン

G・P・S (Global, Powerful, Sustainable)

「自らの現在位置を正確に把握したうえで、
将来に向けての適切な方向性を確保していく」

中期経営計画 数値目標の分析

(百万円)

	中計 '12.3期目標	'12.3期予想	差異分析
売上高	30,500	28,000	<ul style="list-style-type: none"> - 国内アルツ販売数量は想定以上の伸び - 研究用試薬の市場環境悪化 - 円高の影響 - 米国スパルツの数量減
営業利益	6,000	4,800	<p>販管費はほぼ想定どおり R&D費率(12年3月期予想): 21.4% ⇒売上高の減少見合いの未達</p>
前提レート (1US\$)	93.00円	83.00円	

中期経営計画 重点課題の進捗状況

重点課題

進捗状況および'12.3期達成見込み

日本市場(アルツ・オペガン)での売上成長

【アルツ】疾患啓発活動の継続・プラスチック容器の投入
⇒医療機関納入本数は'09.3期から平均+8%強で増加中
【オペガン】増加基調、市場シェア拡大

Gel-One 米国上市

'11.3にFDAの承認取得。年内の発売を目指す。

米国以外の地域(中国等)での売上増加

【中国】主要都市の基幹病院をほぼカバーし、続伸
⇒'12.3期の輸出売上は'09.3期と比べ60%増加
【イタリア】5本包装品投入により売上拡大

機能化学品事業
(生化学バイオ・ACC)の売上増加

【ACC】'09.3期から黒字体質が定着
【事業見直し】'12年3月で研究用試薬事業を廃止
医薬品原体、LAL試薬に集中

スパルツの肩の適応症追加

'11.3にFDA申請取り下げ



<http://www.ehiza.jp/>

■ 業績予想に関する留意点

当資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますので、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの将来に関する記述に全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は様々な要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。

(参考資料)

◆ ロイヤリティー収入の計上区分の変更について

'11年3月期より、ロイヤリティー収入の計上区分を以下のとおり変更しました。

ロイヤリティーの種類	計上区分	
	変更後	変更前
使用許諾型ロイヤリティー収入 * 特許権等の使用を許諾したに関するもの	売上高	売上高
マイルストーン型ロイヤリティー収入 * 製品の開発から販売に至るまでの各マイルストーンの達成に応じて研究開発費の早期回収などを意図するもの	営業外収益	

変更の理由：

マイルストーン型ロイヤリティー収入は、営業外収益として表示することが、営業活動の成果をより明瞭に表示すると判断したため。

◆ 売上高セグメントの変更について

会計基準の変更を受け、'11年3月期よりセグメント別の事業区分を「医薬品」「機能化学品」の2区分とすることといたしました。各セグメントに含まれる売上高の内容は以下のとおりです。

①「医薬品」

国内医薬品：国内市場向け医薬品事業に関連する売上高

海外医薬品：医薬品の輸出事業に関連する売上高

②「機能化学品」

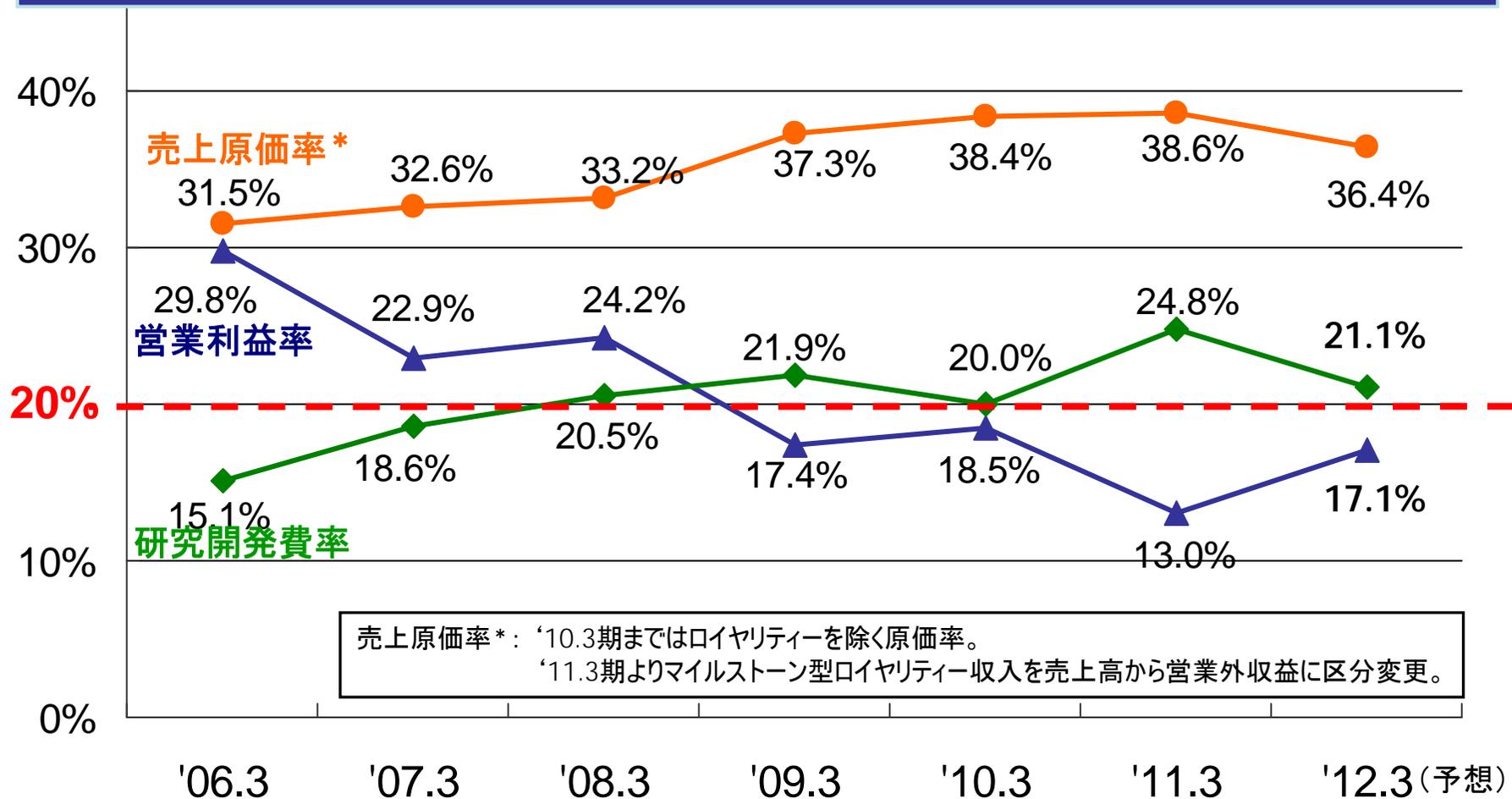
試薬・診断薬：試薬および診断薬事業に関連する売上高

医薬品原体：医薬品原体および健康食品原料事業等に関連する売上高

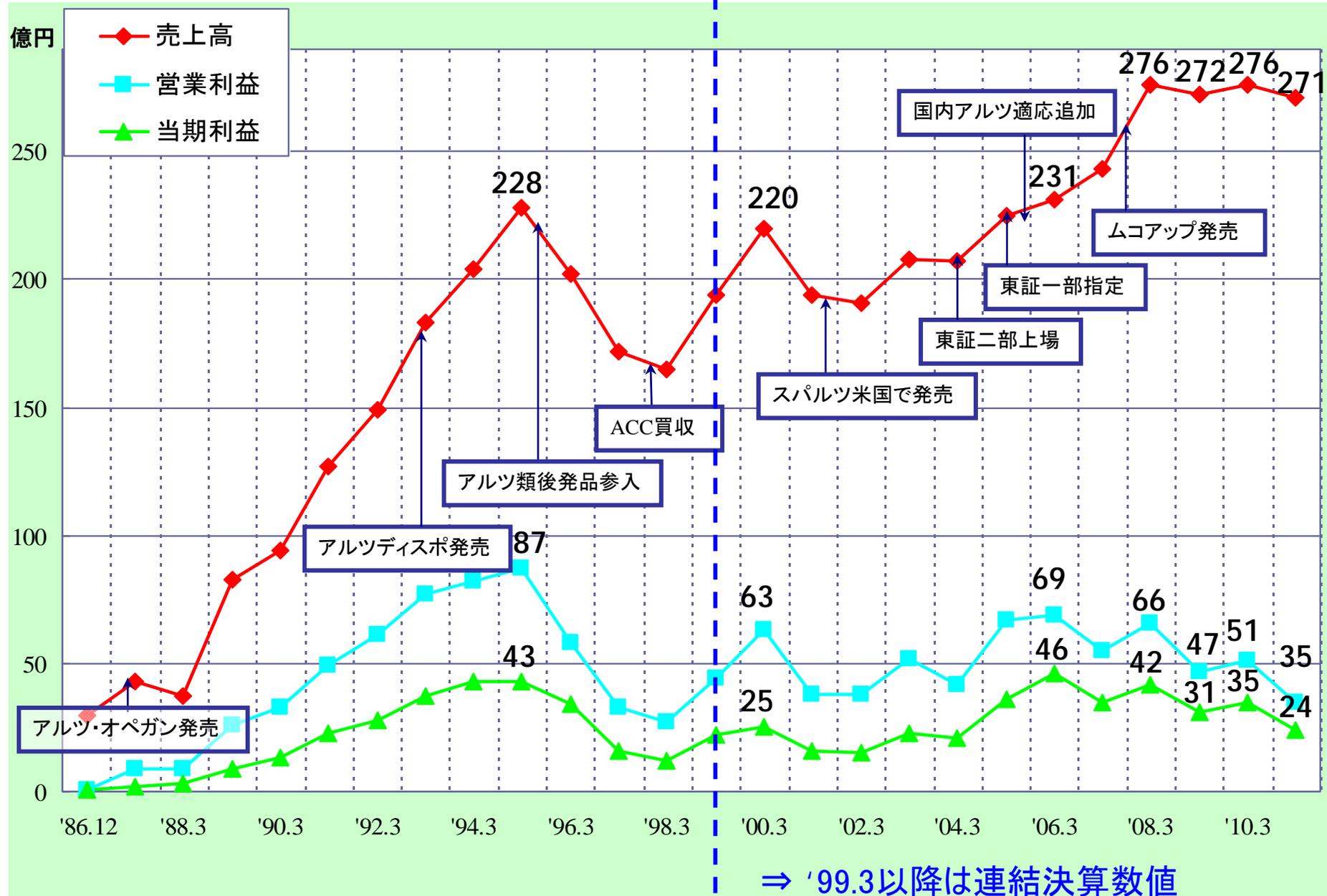
なお、前期比については、前期の実績を今回の変更をもとに再計算し、算出しています。

売上原価率・販管費率の推移

◆Point: '09年3月期よりアルツディスポ新製剤棟の減価償却開始
'11年3月期はSI-6603国内治験費を研究開発費に一括計上



業績の推移と主なトピックス

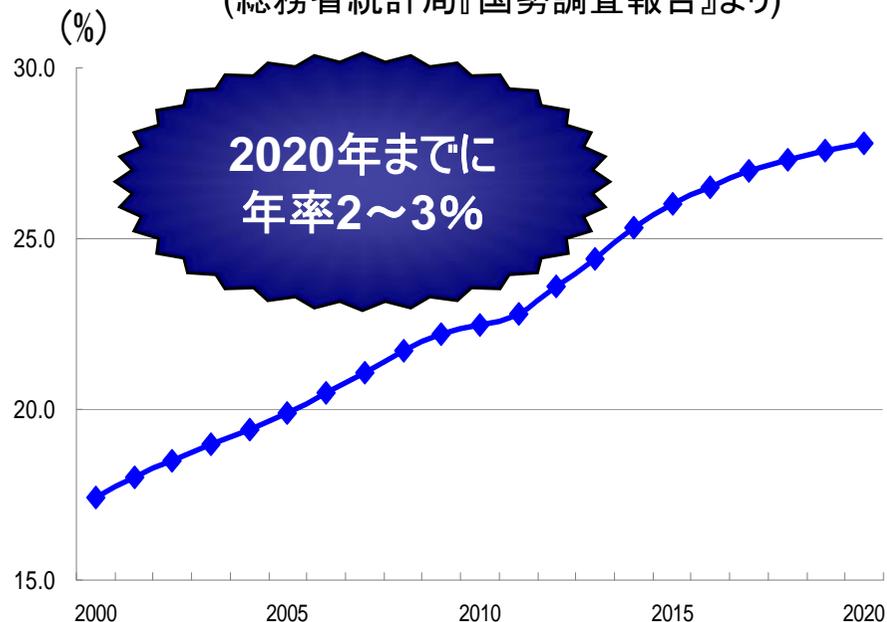


日本市場でのアルツの成長性

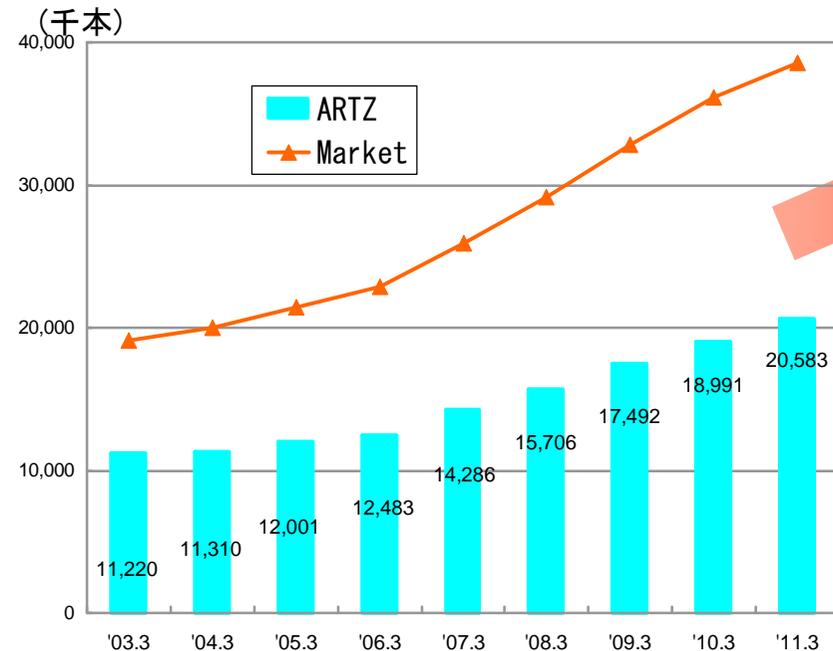
- 日本における変形性膝関節市場は高齢者人口の増加に伴って引き続き増加
- 変形性膝関節症の顕在患者は約800万人おり、潜在患者は約2,530万人（東京大学の調査による）

■ 高齢者人口比率の増加

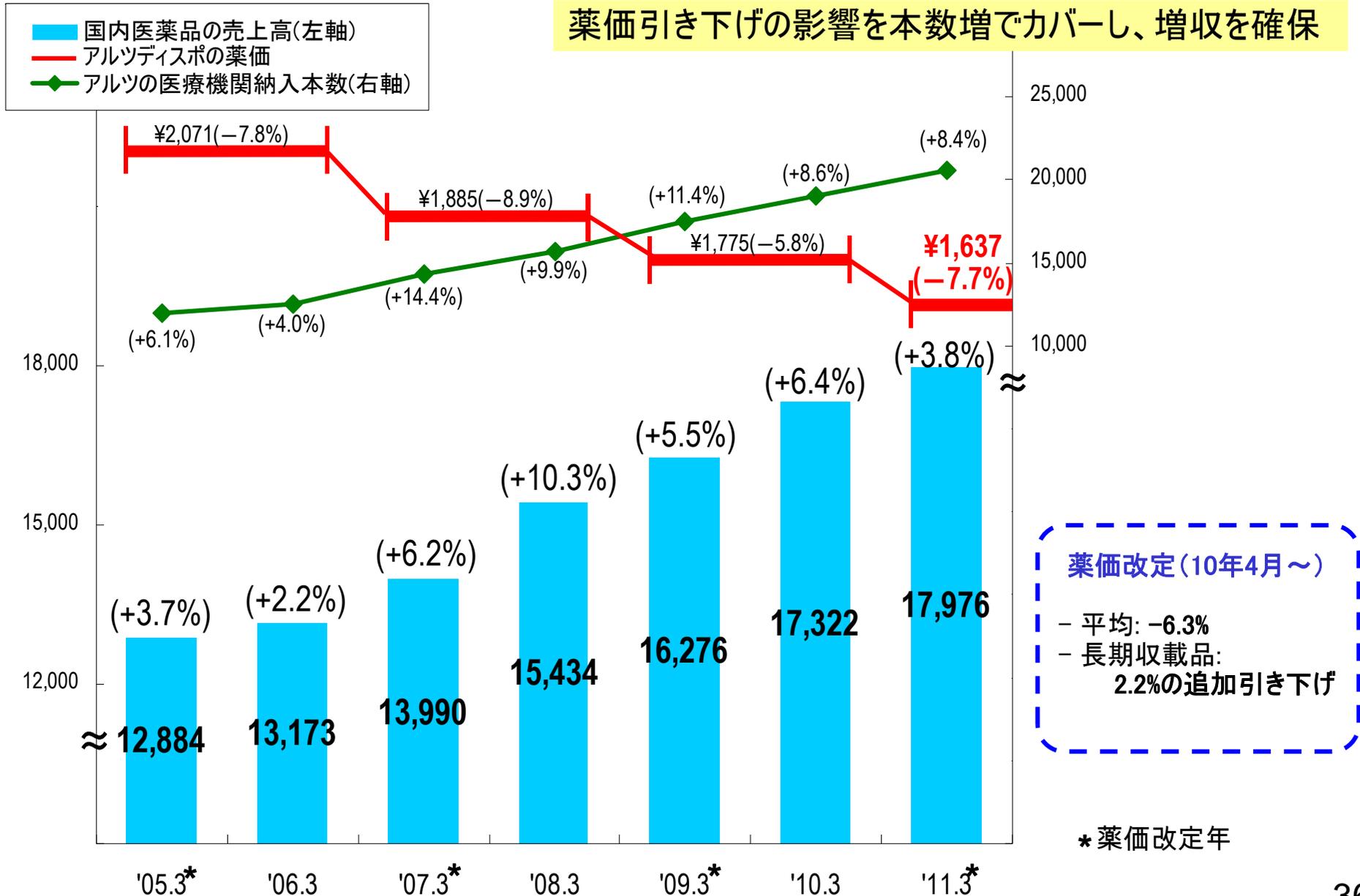
(総務省統計局『国勢調査報告』より)



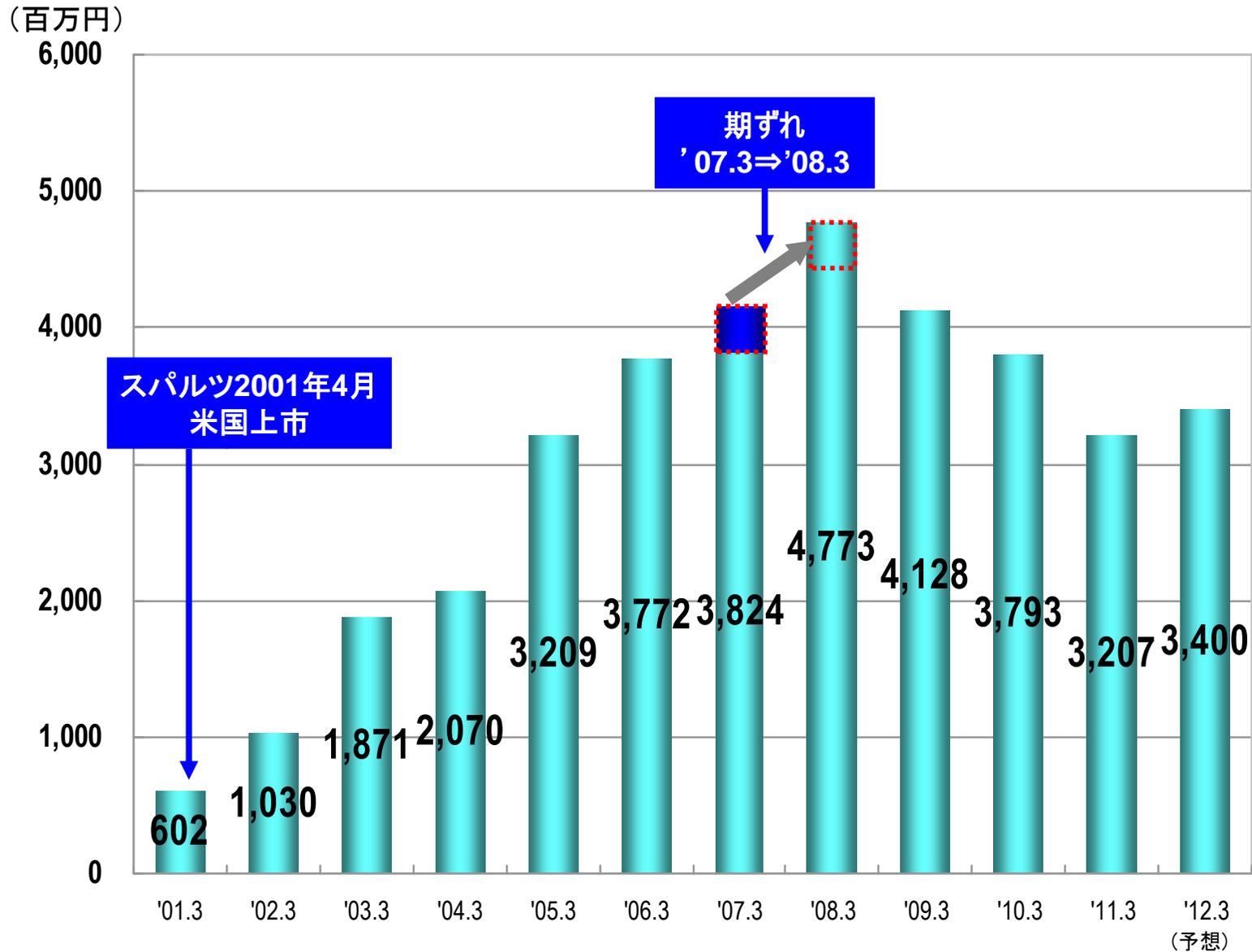
■ アルツの医療機関納入本数の推移



薬価と国内医薬品売上高の推移



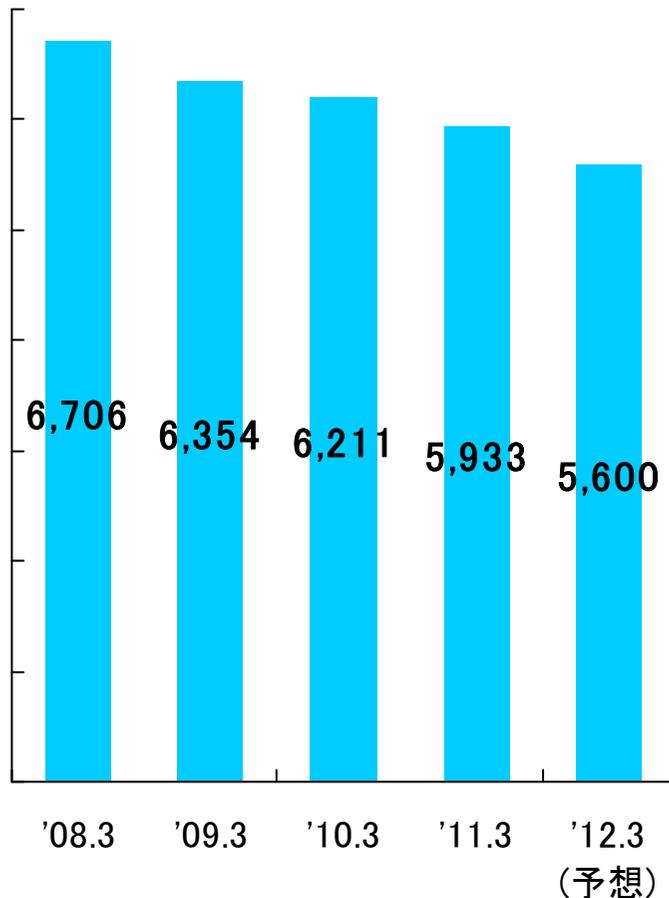
海外市場でのヒアルロン酸製剤の販売推移



機能化学品の販売状況(金額ベース)

機能化学品の売上推移

(百万円)



■ '11/3期実績 -4.5% (前期比)

<医薬品原体> +4.9%

・使用製品の販売増加により、ヒアルロン酸が増収

<試薬・診断薬> -7.8%

・ACCの現地通貨ベースの売上は増加したものの、円高の影響や国内試薬の販売減により減収

■ '12/3期予想 -5.6% (前期比)

<医薬品原体> +6.3%

・ヒアルロン酸が引き続き順調に推移

<試薬・診断薬> -10.4%

・海外売上が増加するものの、本年9月に研究用試薬の販売を終了することから減収

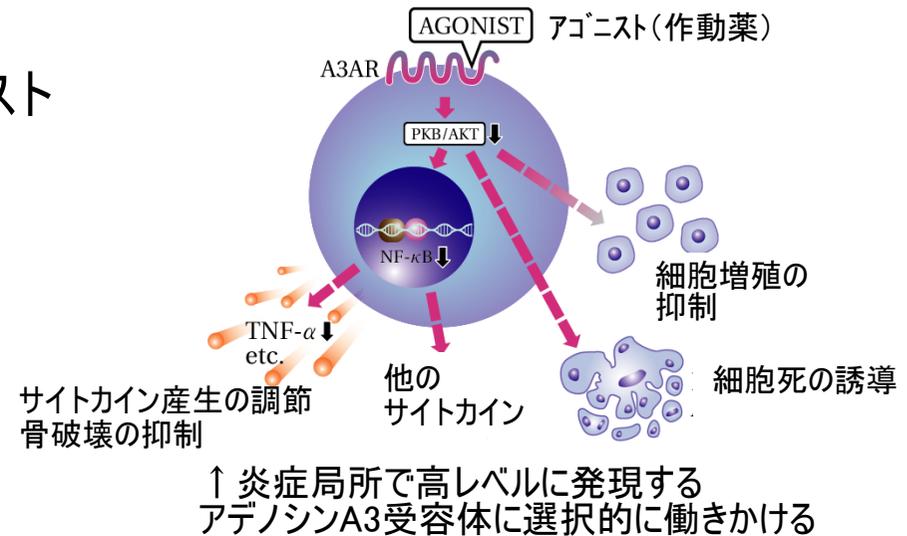
「SI-615」の開発状況

- ◆ 物質名：アデノシンA3レセプターアゴニスト
- ◆ 適応症：関節リウマチ
- ◆ 用法：経口剤

【現在のステージ】

- ・P I（日本）
- ・P II（欧州等）CanFite社実施

⇒ 当社では、導入元のCanFite社が実施中の単剤でのP II bの進捗等を考慮し、今後の開発方針を再検討する



◆ 特徴:

- ・ CanFite BioPharma社からの導入テーマ
- ・ 炎症性局所で高レベルに発現するアデノシンA3受容体を選択的に働きかけ、炎症の発症に関与する細胞内情報伝達や炎症性サイトカインの産生を抑制する作用が考えられている

「SI-636」の開発状況

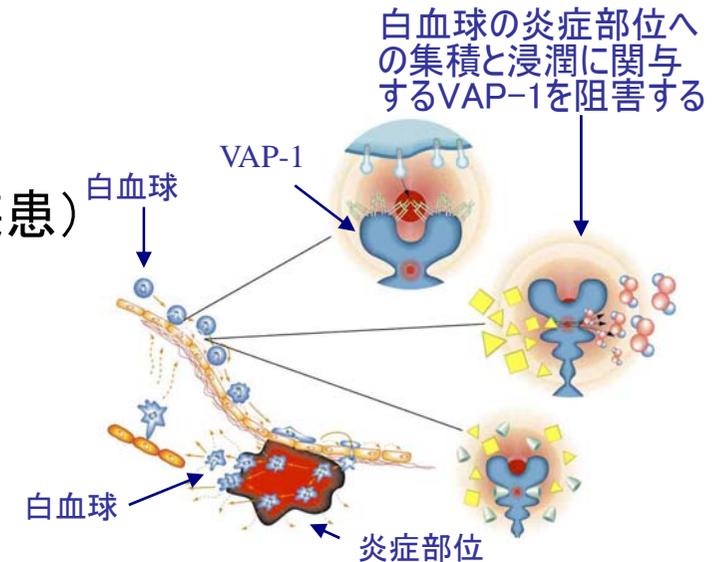
- ◆ 物質名：抗VAP-1モノクローナル抗体
- ◆ 適応症：炎症性疾患
(目標疾患：関節リウマチ・乾癬・炎症性腸疾患)
- ◆ 用法：静脈への注射

【現在のステージ】

- ・前臨床段階(日本)
- ・P I (欧州) BioTie社実施

⇒ 導入元のBioTie社実施の関節リウマチにおけるP I 反復投与試験が終了
重篤な副作用もなく、忍容性が確認された

・当社では、BioTie社が行う試験の進捗を考慮し、今後の開発方針を検討する



◆ 特徴：

- ・ BioTie Therapies社からの導入テーマ
- ・ 白血球の炎症部位への集積と浸潤に関与する接着分子VAP-1を阻害することにより、炎症を抑えることが期待される
- ・ 従来の抗炎症剤が炎症性物質の発生や作用を抑制するのに対して、白血球の働きをコントロールする接着分子に作用する点で極めて新規性が高い



<http://www.ehiza.jp/>

■ 業績予想に関する留意点

当資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますので、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの将来に関する記述に全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は様々な要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。